

所属と愛の欲求について

「何があっても見放さない」患者医師関係―

笠間市立病院 石塚恒夫

米国の心理学者マズローの欲求段階説をご存知でしょうか。

マズローは人間の欲求を、①生理的欲求(食事・睡眠など)・②安全の欲求(経済的安定・健康など)・③所属と愛の欲求(人とのつながり)・④承認の欲求(相手や自己からの評価)・⑤自己実現の欲求(自分の使命の自覚と達成)の5段階に分類しました。欲求には優先度があり、低次の欲求が充足されないと高次の欲求へ移行しにくいとされます。多くの日本人は①・②の欲求はある程度満たしています。③はどうでしょうか。

所属と愛の欲求のポイントは、「何があっても守ってあげる」とか「何があっても信じてあげる」というような、安心できる環境があることです。小さな子供の頃は、おそらくそうだったでしょう。しかし今は「成績があがらないと・稼ぎが悪いと・結婚しないと・ほけてしまふと、認めてあげない」というような条件を、つけたりつけられたりしていませんか。うまくいかないと見放されるといふのでは、人は困難なことに挑戦できず承認の欲求も満たされるこ

とはありません。

これは親子関係・夫婦関係・職場での人間関係など、すべての人間関係に当てはまります。患者医師関係もそうかもしれません。糖尿病などの慢性疾患で生活習慣改善がうまくいかない、(自分のことは棚にあげて)強く指導することがあります。しかし言葉の端々や態度で、「たとえうまくいなくても、見放すことはありませんよ」という気持ちがあればなりません。

現在医療の対象は、感染症などの急性疾患から生活習慣病などの慢性疾患に移行しています。患者とかかりつけ医は、当然長い付き合いになるのです。医師は医学的に推奨される方法を勧め、患者は自分の気持ちや事情・価値観を大事にします。自分の意見を押し付けるのではなく、長続きはしないでしょう。相手の意見も尊重し妥協案を見つけていくという、継続的な対話が必要です。



笠間の歴史探訪 6

館岸城跡とその周辺の歴史

館岸城跡のある岩間上郷地区は、国道355号西側に広がる田園地帯で、西端に難台山、北側に館岸山を背負い、穏やかな里山の原風景を残す貴重な地区です。春は梅や山桜が咲き誇り、夏は田圃の緑やホタルの飛翔、秋から冬にかけて民家の庭先には柿や柚子、温州ミカン、リンゴと豊かな実りが生活に溶け込んでいます。

この北側に標高256mの館岸山があり、その南斜面を利用して館岸城跡があります。南北朝時代の常陸における最後の戦いといわれる小山義政の乱(難台山合戦)で上杉方が陣を張った拠点と伝えられてきた所です。現存する遺構は、曲輪が一線で造られた単純な一線防御の特徴を持ち、土塁の出口を塞いだ池のような水の手、敵を待ち構えて侵入を防ぐ堀障子などが残っています。残念なことに南北朝時代まで遡ることができませんが、これだけ山城としての形態が残っているのも珍しく、貴重な遺跡として特に保存が重視されてきました。地主の方々にご協力を頂いて、今年3月に市指定の文化財となりました。

この館岸城跡に登るには、何本かの道がありますが、地元の人達のご好意によりハイキングコースが整備されています。尾根を伝わり館岸山の南斜面に降りられ、花園、大久保、西寺地区と一回りすることが出来ます。裾には、西寺廃寺跡もあり、笠間市最古の円面硯(市指定文化財)や国分寺瓦など多数出土しています。また、300m南には羽梨山神社(式内社)や奈良時代の創建と伝わる普賢院、1kmほど東へ戻ると平安時代創建と伝わる安国寺など、遺跡が点在しています。

ぜひゆっくり歩いてみてはいかがでしょうか。古代から中世にかけてのこの地区の栄華を彷彿とさせる光景に心を奪われることでしょう。

(市史研究員 川崎 史子)



館岸山